

## 研修報告書 No.4

研修先： 田野病院

高知県田野町の臼井会田野病院で地域医療研修をさせていただきましたので、研修報告をさせていただきます。

田野病院は、高知県東部の安芸保健医療圏の医療機関の一つであり、二次救急病院として急性期医療を担っているほか、それと同様の規模で回復期医療をも提供している病院でした。急性期、回復期病床はそれぞれ 42 床ずつあり、入院患者の 85%は 70 歳以上といった特徴がありました。二次救急ではあるものの当直医一人体制であり、救急搬送が 2 台立て続けにくると回らなくなってしまうほどの医師不足という現状を目の当たりにしました。全科を診る当直としての対応になるので、幅広い知識と手技が求められます。医師数が多い地域とは求められる医師像が異なっており、今後地域医療に関わる際には専門的な知識のみならず、ある程度幅広く対応できる能力を身につけておく必要があると思いました。また、急性期診療を幅広く行うだけでなく、回復期医療の知識や退院後のリハビリ・訪問診療の介入など、地域包括ケアシステムの全体像を把握し臨床に応用できる力をも求められていました。

実際の地域医療研修では、私が現在医師臨床研修として勤務している急性期病院では経験することができていなかった事柄を学ぶことができました。病棟では、急性期のみならず回復期の患者さんを担当させていただきました。日々のリハビリ等の経過を追いながら、徐々にできることが増えていく姿を直接見ることができ、これまでの病棟管理とは異なっていたいい経験になりました。また、リハビリ一つをとっても、入院患者のリハビリから、通所、訪問リハまで、さまざまな利用者のニーズに合わせたリハビリテーションを展開しており、地域に根ざした、地域完結型の医療を実践されていると感じました。また、医師臨床研修では中々機会のない、訪問診療や、ヘルパーの同行、療養型施設の見学を行うこともできました。訪問診療では田野町周辺から室戸岬近辺までを対象範囲として、さまざまなバックグラウンドを持った方のお宅に訪問し、退院後の生活の一部を垣間見ることができました。その他、小児神経外来やもの忘れ外来の見学などもさせていただいたり、胃瘻造設術や腹部エコー等の手技の機会にも恵まれました。急性期から回復期、慢性期、地域医療と幅広く研修ができ、大変実りのある研修内容だと実感しております。

今回の地域研修を通して改めて学んだこと、今後力を入れて学ぶ必要があると感じた内容としては、地域包括ケアシステム、全科当直の対応、高齢化社会における診療の 3 点です。前述の通り、現在は急性期病院の勤務医であり、地域包括ケアシステムのごく一部分しか担っていません。今後地域で診療したり、各種施設に関わることもあると思うので、慢性期以降の医療の構造とニーズを継続的に学ぶ必要があると実感しました。また、一人で全科

当直をするにあたっては、限られた医療資源の中どこまで対応をすべきで、どの時点で次の医療機関に繋ぐかなどの肌感覚を養う必要があると思いました。継続的に各科の最新の知見をアップデートしつつ、臨床に応用できるよう知識の整理を絶えず行なっていこうと思います。高齢化社会における診療については、老年医学といった観点から考えると、継続的に医療機関を受診してもらうことや、服薬コンプライアンスを高めることが重要となってきます。临床上、内服が必要な薬剤等が数多くあったとしても、経済状況や内服管理等を考えながら、いかに適切な処方を行うかといった観点についても学ぶ必要があると実感しました。

4週間の研修を経て、これまで経験することができなかったさまざまな医療の側面を学ぶことができ、今後の課題を設定することができました。懇切丁寧に指導してくださった田野病院院長の臼井先生をはじめ、その他数多くの関係者の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。